

# 日刊 動労千葉

84. 3. 1

No. 1577

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七二(22)七二〇七

## オ4回80年代を闘う大成功 労組活動家懇談会

動労千葉の呼びかけによる「第四回80年代をたたかう労組活動家懇談会」は、二月二六日、船橋商工会議所ホールに全国から六八の労組、各団体、三一六名の闘う労働者を結集して開かれました。

動労千葉・水野副委員長、反対同盟・北原事務局長、鈴木幸司氏、萩原勇一氏が決意と提起

動労千葉片岡教宣部長の司会で開始された集会の最初に、主催者を代表して、水野副委員長が挨拶にたち、動労千葉の「3・25三里塚五割大動員」の鮮明な決意をのべました。

三里塚からは、反対同盟の北原事務局長、鈴木幸司氏、萩原勇一氏がかけつけ、芝山町議選勝利の報告とお礼をのべたうえで、公団の手先きの本性をあらわして公然と条件交渉への傾斜をはじめた第四インターはじめとする脱落派を粉碎・一掃して、3・25三里塚に空前の大結集を実現し、二期着工を阻止しようとして熱心に訴えました。

三里塚闘争が階級闘争の一切を切りひらく

――布施書記長が基調報告――

基調は、布施書記長から提起されました。布施書記長は、第一に「三里塚から何を学ぶのか」として、階級移行した動労「本部」革マルをはじめ、日本の労働運動が総屈服を深める状況のなかで、階級闘争の展望を切りひらくすべてが三里塚にあること。

第二に、日本労働運動の直面する課題は、日帝に勝利する路線が求められていることであり、三里塚を闘う労働運動の階級性、勝利性と、動労「本部」革マルと対決する労働運動の正義性に確信をもち、日本労働運動の戦闘的再生の先頭にたつこと。

第三に、「すべてを3・25三里塚へ」

として、「敵しい情勢」は、敵にとつてもわれわれにとつても絶好のチャンス。3・25は死活をかけた決戦場として、動労千葉は五割大動員を決意した。すべての職場から3・25三里塚へ大結集しようとして提起し、会場全体の圧倒的拍手で確認されました。

各産別代表が、3・25へむけ熱烈な決意表明

つづいて、高島喜久男氏より「80年代労働運動の課題」と題して講演を行いました。

高島氏は、戦闘的労働運動が小なりといえども、既に様々なところできりとく闘いをきりひらいてきている事例を紹介しながら、「この動労千葉を軸にした労組懇が、十分機能を発揮し、現場の労働者と結合して日本の労働運動を戦闘的につくりかえていく中軸となつてほしい」と話されました。

集会に寄せられた多くのメッセージが紹介され、全金本山の青柳書記長より、兄弟組合として闘う決意がのべられた後、労組連事務局より問題提起を行いました。

つづいて、国労、全通、全電通、自治労、私鉄、都市交、教組、政労協、



全国から、68労組・団体、316名の闘う仲間が結集(2月26日)

全造船、電機、化学、石油、食品、出版、山谷統一労組、国公、日放労等々の多くの産別からの職場報告に移り、全発言者は、三里塚で中曽根の大反動攻撃を打ち破り、日本労働運動の大転換をかちとるために、動労千葉と労組連の大結集を実現し、3・25の勝利をかちとる決意を明らかにしました。

集会は最後に、動労千葉田中青年部長より「3・25に動労千葉は、ストライキを闘う決意で、いまだかつてない規模の三里塚五割大動員にチャレンジし、必ず実現する」との断固たる戦闘宣言をうけ、水野副委員長の団結ガンバローをもって、約七時間にわたる集会を大成功のうちに終了しました。

**3.25三里塚へ**

今秋二期着工策動粉碎、脱落派粉碎・一掃  
二期阻止・空港廃港

**3.25全国総決起集会** (3月25日(正午) 三里塚第一公園)

三里塚芝山連合 空港反対同盟  
連絡先 成田市三里塚115 北原鉄治